

中学校第3学年 国語科 学習指導案

奈良教育大学 国語教育専修 田中愛花

1. 単元名 万葉の世界から今へ ー過去・現在・未来へ思いよ届けー

2. 単元の目標

- ・万葉集は天皇をはじめ様々な身分の方の歌を集めており、万葉の人々は思ったことや感じたことを歌にこめていたこと、奈良の写真家「入江泰吉」は万葉の人々の思いを写真で表現した芸術家であると知ることができる。 (知識・技能)
- ・万葉集の歌に込められた思いについて自分なりの考えを持ち、入江泰吉が歌に合わせた写真を撮影した理由について考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・万葉集の歌に込められた思いやその背景について進んで学ぼうとし、積極的に自分の思いを周囲に伝え、紹介文を書くことができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

『万葉集』は今から約1300年前の759年以降に作られた日本最古の歌集である。629～759年までの130年間に詠まれた歌が集められている。万葉集は4期に分けられる。第1期は629年から672年までであり、舒明天皇即位から壬申の乱までである。有名な作者は、舒明天皇、有間皇子、中大兄皇子、額田王である。第2期は672年から710年までであり、天武・持統の律令形成期を経て、平城京遷都までである。有名な作者は、天武天皇、持統天皇、大津皇子、柿本人麻呂である。第3期は山部赤人、山上憶良の時代である。有名な作者は、山部赤人、山上憶良、大伴旅人である。第4期は大伴家持を中心とする時代である。有名な作者は、大伴家持、笠女郎である。また内容で大きく分けると、行幸や宴で詠まれた雑歌、恋模様を詠んだ相聞歌、故人を偲ぶ挽歌の3つに分けることができる。このほか、地方で詠まれた庶民の歌が多くある東歌、太宰府へ集められた人々が読んだ防人歌がある。

万葉集の特徴は2つある。1つ目は、天皇から民衆まで様々な身分の人の歌が集められているので、色々な立場の人の考えや感じ方を味わうことができる点である。2つ目は、感じたことがまっすぐ伝わってくる歌が多いことである。政治の争いが起こり、戦も絶えなかったからこそ雄大で力強い歌がたくさん詠まれたのだろう。万葉の人々は、男女の恋心に燃え上がり、大切な人の死を弔い、自然に感動し、その強い思いを歌として表現していたのである。

入江泰吉は万葉の人々のその強い思いに心を打たれ、万葉の人々の心情を写真に映し込もうとした。初めの頃の入江は万葉集について、大和路を写真で表現するためのアプローチの一つとして捉えていたが、万葉集への知見が広がるにつれそれまでの白黒写真を離れ、万葉の人々の喜怒哀楽を風景に投影したカラー写真を撮るようになっていく。万葉集で表された万葉の人々の思いは、芸術家の作風まで変えてしまったのである。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、男子10名、女子8名の計18名である。本学級の生徒は我が国の言語文化の学習として、中学1年生では『いろは歌』や『蓬萊の玉の枝』の教材で古典の世界に親しみ、中学2年生では『平家物語』『徒然草』『枕草子』などの古典文学を読んで、我が国の歴史の中で創造され、継承されてきた文化的に高い価値を持つ言語そのものに触れた。中学2年生の最後に国語への関心・意欲についてのアンケートを取ったところ、国語が好きな理由として「日本の古典文学が面白いと感じるから。」と答える生徒が多数いた。一方で、国語を苦手とする生徒の理由に「古典は何が書いてあるかよくわからないので難しいと思うから。」というものがあつた。古典に親しみを感じにくい生徒のことも配慮し、現代語訳や解説文などなるべく簡単な言葉を使いたい。

(3) 指導観

本単元の学習を通して生徒には、2つのことを学んでほしいと思っている。1つ目は、1300前に生きた万葉の人々が思ったことや感じたことは今の我々にも繋がるものがあるということだ。1300年前と今を比べれば、暮らしも文化も政治・経済も何もかも違う。しかし、万葉集を見てみると、人の気持ちは変わらないことがわかる。2つ目は、万葉の人々が感じたことをありのまま歌に表したように、生徒も自分の考えをありのまま文に表して、周囲に思いを伝える力を伸ばすことである。本単元の学習を通して魅力的な文章の書き方を学んでほしいと思う。

まず初めに教員が「あをによし 奈良の都は 咲く花の 薫ふがごとく 今盛りなり(328 小野老)」の歌と入江泰吉が合わせて撮影した写真を生徒に見せる。この歌は、生徒達の住む奈良について詠まれた身近な歌であることや、奈良の写真家である入江泰吉がこの歌をイメージして撮影した写真があることについて知らせる。

次に、万葉集について時代背景や作者、作風について万葉文化館の方をお招きして教えていただく。主に万葉集が作成された時期やその歴史的背景、歌の大まかな内容や特徴(相聞・雑歌等)などについて講義していただく。特に、万葉集は天皇から民衆まで様々な身分の人の歌が集められているので、色々な立場の人の考えや感じ方を味わうことができると、歌風が「たおやめぶり」という思ったこと、感じたことがまっすぐ伝わってくる歌が多いことを強調していただきたいと思う。

その次に、万葉集の歌の中から9首取り上げ紹介する。その10首は以下の通りである。

- | |
|--|
| <p>①百伝ふ磐余の池に鳴く鴨を今日のみ見てや雲隠りなむ(3-416 大津皇子)
②神風の伊勢の国にもあらましをなにししか来けむ君もあらなくに(2-163 大伯皇女)
③今朝の朝明雁が音聞きつ春日山もみちにけらしわが心痛し(8-1513 穂積皇子)
→説明に「言繁き里に住まはずは今朝鳴きし雁にたぐひて行かましものを(8-1515 但馬皇女)」を使う
④夏野行く小鹿の角の束の間も妹が心を忘れて思へや(4-502 柿本朝臣人麻呂)
⑤月立ちてただ三日月の眉根搔き日長く恋ひし君に逢へるかも(6-993 大伴坂上郎女)
⑥ふりさけて三日月見れば一目見し人の眉引思ほゆるかも(6-994 大伴宿禰家持)
⑦藤波の花は盛りになりにけり奈良の都を思ほすや君(3-330 大伴宿禰四綱)
⑧わが行きは久にはあらじ夢のわだ瀬にはならずて溯にあらぬかも(3-335 大伴宿禰旅人)
→説明に「父母が頭搔き撫で幸くあれて言ひし言葉ぜ忘れかねつる(20-4346 丈部稲麻呂)
⑨香具山は畝傍ををしと耳成と相あらそひき神代よりかくにあるらし古も然にあれこそうつせみも妻をあらそふらしき(1-13 天智天皇)</p> |
|--|

以上の9首は「奈良の地名が入っている」「挽歌」「相聞歌」「太宰府で詠まれた歌」の条件の一つ以上を満たしており、さらに入江泰吉が撮影した写真を持っている歌(参考：入江泰吉の詩情世界『万葉大和路』)である。歌を紹介した後は、歌に対応する入江泰吉の写真を見せ、班になってその写真の撮り方について考えさせる。

最後にお気に入りの歌と写真を選び、紹介文を書く。書いた紹介文を学級で冊子にして、万葉文化館と入江泰吉記念奈良市写真美術館においてもらう。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

相互性

万葉の人々が思ったことや感じたことは今の我々にも繋がるものがあり、人の気持ちは変わらないこと。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

コミュニケーション力

万葉の人々が感じたことをありのまま歌に表したように、生徒も自分の考えをありのまま文に表して、周囲に思いを伝える力を伸ばすこと。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正を意識できる

万葉の人々も、男女の恋心に燃え上がり、大切な人の死を弔い、自然に感動するという今の人と変わらない感性を持っていたことに気付くこと。

人権・文化・平和を尊重できる

感じたことがまっすぐ伝わってくる歌が多いことや、他の歌集とは違い、優秀な作品であれば庶民の歌も載せている点で万葉集は優れていることに生徒が気付くこと。

・達成が期待されるSDGs

4 質の高い教育をみんなに(7 文化の持続可能な開発への貢献の理解)

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①万葉集は天皇をはじめ様々な身分の方の歌を集めており、万葉の人々は思ったことや感じたことを歌にこめていたことを知っている。</p> <p>②奈良の写真家「入江泰吉」は万葉の人々の思いを写真で表現した芸術家であることを理解している。</p>	<p>①万葉集の歌に込められた思いについて自分なりの考えを持っている。</p> <p>②入江泰吉が歌に合わせた写真を撮影した理由について考えている。</p>	<p>①万葉集の歌に込められた思いやその背景について進んで学ぼうとし、積極的に自分の思いを周囲に伝え、紹介文を書いている。</p>

5. 単元の指導計画 (全9時間)

次	主な学習活動	学習への支援(・)	評価(Δ) 備考(・)
1	<p>①単元の見通しを持つ。</p> <p>a) 万葉集の歌について知る。「あをによし 奈良の都は 咲く花の 薫ふがごとく 今盛りなり(328 小野老)」の歌について知り、気づいたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「奈良」が入った歌だね。 <p>b) 歌の意味の説明を聞き、情景を思い浮かべる。</p> <p>c) この歌を詠んだ小野老の心情を考え、ワークシートに記入しクラスで発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・故郷である奈良が大好きなので、奈良は良い場所だと言いたかったのではないかな。 <p>②入江泰吉について知る。</p> <p>a) 入江泰吉は奈良の写真家で、万葉集の歌に合わせた写真を撮っていたことを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あをによし 奈良の都は 咲く花の 薫ふがごとく 今盛りなり(328 小野老)」の歌の現代語訳と奈良の都を讃える歌であると教える。 ・思い浮かべさせた後に、ペアで話すよう指示する。 ・入江の撮影した写真を何 	<p>△ア① 発表・ ワーク シート</p>

	<p>b) 「あをによし～」の歌に合わせた写真を見て、自分が思い浮かべていた風景と同じか異なるかについて判断し、その理由を考えワークシートに記入しクラスで発表する。</p> <p>c) 入江の撮影した他の写真も見て、「あをによし～」の歌に合うものを探す。</p>	<p>枚か見せる。</p> <p>・理由も簡単に考えさせる。</p>	
2 ～ 3	<p>③万葉集について詳しく知る。</p> <p>a) 出前授業に来ていただいた万葉文化館の方から、時代背景や作者、作風について教わり、メモをとる。</p> <p>b) メモをもとに、学んだことを班で共有する。</p> <p>c) 聞いて知ったことや、そこから考えたことをワークシートにまとめる。</p>	<p>・万葉文化館の方から、万葉集は天皇から民衆まで様々な身分の人の歌が集められているので、色々な立場の人の考えや感じ方を味わうことができることや、感じたことがまっすぐ伝わってくる歌が多いことを強調してお話してもらう。</p>	△ウ① <u>観察・</u> <u>メモ</u>
4	<p>④万葉集の歌を鑑賞する・</p> <p>a) 「百伝ふ磐余の池に鳴く鴨を今日のみ見てや雲隠りなむ(3-416 大津皇子)」「神風の伊勢の国にもあらましをなにしか来けむ君もあらなくに(2-163 大伯皇女)」の歌について学習し、現代語訳や、2人の関係性等について知る。</p> <p>b) 「今朝の朝明雁が音聞きつ春日山もみちにけらしわが心痛し(8-1513 穂積皇子)」の歌について学習し、「言繁き里に住まはずは今朝鳴きし雁にたぐひて行かましものを(8-1515 但馬皇女)」の歌と合わせて現代語訳や2人の関係性等について知る。</p> <p>c) 考えたことや思ったことをワークシートにまとめ班ごとに話し合い、クラス内で発表する。</p>	<p>・4時間目に扱う歌は、挽歌なのでやりとりの歌をみる中で、互いがどのような気持ちを持っていたのかという点に特に注目して進める。</p> <p>・司会者を立て、一人一人の発表時間を設ける。</p>	△イ① <u>発表・</u> <u>ワーク</u> <u>シート</u>
5	<p>⑤万葉集の歌を鑑賞する</p> <p>a) 「夏野行く小鹿の角の束の間も妹が心を忘れて思へや(4-502 柿本朝臣人麻呂)」の歌について学習し、現代語訳や序詞について知る。</p> <p>b) 「月立ちてただ三日月の眉根搔き日長く恋ひし君に逢へるかも(6-993 大伴坂上郎女)」「ふりさけて三日月見れば一目見し人の眉引思ほゆるかも(6-994 大伴宿禰家持)」の歌について学習し、現代語訳や、2人の関係性等について知る。</p> <p>c) 考えたことや思ったことをワークシートにまとめ班ごとに話し合い、クラス内で発表する。</p>	<p>・5時間目に扱う歌は、恋の歌なのでやりとりの歌をみる中で、互いがどのような気持ちを持っていたのかという点に特に注目して進める。</p> <p>・司会者を立て、一人一人の発表時間を設ける。</p>	△イ① <u>発表・</u> <u>ワーク</u> <u>シート</u>

6	<p>⑥万葉集の歌を鑑賞する</p> <p>a) 「藤波の花は盛りになりになりけり奈良の都を思ほすや君(3-330 大伴宿禰四綱)」 「わが行きは久にはあらし夢のわだ瀬にはならずて湊にあらぬかも(3-335 大伴宿禰旅人)」の歌について学習し、現代語訳や情景の説明をもとに、都を離れた人が懐かしむ心情について知る。・</p> <p>b) 防人の歌である「父母が頭搔き撫で幸くあれて言ひし言葉ぜ忘れかねつる(20-4346 丈部稲麻呂)」の歌について学習し、現代語訳や情景の説明をもとに、防人の心情について知る。</p> <p>c) 「香具山は畝傍ををしと耳成と相あらしひき神代よりかくにあるらし古も然にあれこそうつせみも妻をあらそふらしき(1-13 天智天皇)」の歌について学習し、現代語訳や情景の説明をもとに、山を人に見立てる面白さに気づく。</p> <p>d) 考えたことや思ったことをワークシートにまとめ班ごとに話し合い、クラス内で発表する。</p>	<p>・ 6時間目に扱う歌は、これまで学習してきた恋の歌とはまた異なることに注意させる。</p> <p>・ 防人として太宰府にいかされた庶民の思いを想像させる。</p> <p>・ 司会者を立て、一人一人の発表時間を設ける。</p>	△イ① <u>発表・ワークシート</u>
7	<p>⑦それぞれの歌に合った入江泰吉の写真を鑑賞する。</p> <p>a) 入江泰吉は万葉の人々のその強い思いに心を打たれ、万葉の人々の心情を写真に映し込もうとしたことを知る。・</p> <p>b) 入江はなぜその写真を撮ったのか三つの歌について考え、ワークシートにまとめ班で共有する。 ・ 「藤波の花は盛りになりになりけり奈良の都を思ほすや君(3-330 大伴宿禰四綱)」の歌に合わせてこの写真を撮った理由は、奈良を代表する神社である春日大社の見事な藤を強調したかったからじゃないかな。</p> <p>c) 班ででた意見をまとめ、クラスで発表する。</p>	<p>・ 入江の生い立ちや人柄についても軽く紹介する。</p> <p>・ 三つの歌について考えることが難しい生徒には、周囲と協力して考えても良いことを伝える。</p> <p>・ 発表者を立てて発表させる。</p>	△イ② <u>発表・ワークシート</u>
8	<p>⑧お気に入りの歌と写真を選び、紹介文を書く。</p> <p>a) お気に入りの歌と写真を選ぶ。</p> <p>b) 「なぜその歌と写真を選んだのか?」「どんなところが魅力的なのか?」「何を感じたのか?」について意見文を書くため、伝わりやすい文章の書き方についておさらいする。</p> <p>c) 「なぜその歌と写真を選んだのか?」「どんなところが魅力的なのか?」「何を感じたのか?」意見文を書く。</p>	<p>・ 写真は、授業中に扱った写真でも他の入江の写真から選んでも良いこととする。</p> <p>・ 構成を考えたり、表現の仕方を考えたりすることで魅力の伝わりやすい文章になることを伝える。</p>	△ア② <u>発表・紹介文</u>

9	<p>⑨選んだ歌と写真、紹介文を班の人に見せ合あって評価し合う。</p> <p>⑩評価を受け、紹介文を修正する。</p> <p>11学習の振り返りをする。</p>	<p>・評価の基準を教員側である程度決めた紙を渡し、生徒同士で評価させる。</p>	<p>△ウ① <u>意見文</u></p>
	<p>12紹介文と、それぞれの学習の振り返りを冊子にまとめ、万葉文化館と入江泰吉記念奈良市写真美術館に送る。</p>		